特集

鴻巣市・吹上町・川里町　合併検証報告書

後編

市長が語る　合併後のまちづくり

市では、合併後の新市のまちづくりを総合的に検証し、今後の行政運営に活用するため、令和４年３月に「鴻巣市・吹上町・川里町合併検証報告書」を作成しました。

この検証報告書をもとに、新市15年の歩みを市民の皆さんにお知らせするため、２回に分けて合併後のまちづくりを特集しています。

先月号の前編では、財政効果や合併特例債を活用した主な事業、財政状況、市民の皆さんの満足度などをお知らせしました。

今回の後編では、市町村合併を推進し、取り組んできた原口市長に合併後のまちづくりについて伺います。

◇市町村合併を推進した理由は

市長　１９９０年代の地方自治体は、急激に進行する人口減少と少子高齢化、バブル経済の破綻などによる税収の減少、さらに、国の三位一体の改革による影響など、多くの自治体が深刻な財政難となり、将来にわたって活力ある地域社会を実現していくためには、行財政基盤の強化を図ることが、全国の市町村に共通して求められていました。

このような状況の中、私は、平成14年８月に市長に就任し、地域の将来を考える上で、市町村合併の検討は、直面する大きな課題でした。

合併市町村の枠組みは、当時、さまざまな考えがありましたが、市町村合併を推進するため、まず、歴史的、地理的な結びつきが深く、住民交流の盛んな川里町と合併協議会を設立し、その後、吹上町も加わり、１市２町での合併による市民サービス向上や行財政基盤強化の両面から検討を重ね、新鴻巣市としてスタートしたわけです。

多くの自治体で進められた市町村合併への取組は「平成の大合併」ともいわれ、平成11年には全国３，２３２市町村であったものが、平成22年には１，７２７市町村と約半数になりました。

現在、私は埼玉県市長会の会長を務めていますが、埼玉県においても、92市町村が63市町村となるなど、大きな時代の潮流でもありました。

問い合わせ／総合政策課企画担当（内線２２３６）

地域の活動拠点となる北新宿生涯学習センター

フラワーロードの装飾

◇新鴻巣市がスタートしたときの考えは

市長　平成17年10月1日に新たな鴻巣市が誕生したわけですが、私は、常々、市町村合併は目的ではなく、手段であり、ゴールではなく、新しいまちづくりのスタートであると、住民説明会や議会などで説明してきました。

新鴻巣市のスタートにあたっては、大きな期待とともに、身の引き締まる思いでしたね。

鴻巣市・吹上町・川里町のそれぞれの地域の皆さんの声を市政に反映し、21世紀の礎となる「ふるさと鴻巣」を築くために全力を尽くそうと思いを新たにしたことが今でも強く心に残っています。

鴻巣・川里地域を結ぶ渋井橋

◇鴻巣駅・北鴻巣駅・吹上駅の駅前の整備は

市長　新市のまちづくりでは、まず、合併協議会で策定した新市建設計画の着実な推進を第一に考えました。同計画は、市民の皆さんのご意見をとりまとめたもので、将来を見据えた新市のマスタープランです。

「花かおり 緑あふれ 人輝くまちこうのす」を将来都市像とした新市建設計画のもと、新市の速やかな一体性の確立と三地域の均衡ある発展に向け、合併市町村のみが認められる国や県の財政支援等を最大限に活用し、事業を推進しました。

主なものでは、鴻巣駅東口、北鴻巣駅西口、吹上駅北口及び南口の各駅前広場等の整備です。

合併前の鴻巣駅東口周辺は、道路も狭く、雨が降ると非常に混雑する上、駅前広場が冠水することもありました。

この鴻巣駅東口の再開発は、昭和40年代からの長年の懸案でしたが、地権者の皆さんをはじめ、市民の皆さんのご理解とご協力をいただき、かつ、実質的負担が約30％となる合併特例債を活用することにより、後年度の財政負担を抑えた中で、都市機能が充実した鴻巣駅東口周辺が完成しました。

市民の皆さんが日常的に利用できるショッピングモールやレストラン、スポーツクラブなどのほか、公共施設として市民活動センター、図書館、パスポートセンター、映画館、公園などを整備し、本市の中心拠点として、利便性・快適性をはじめ、都市防災の面も飛躍的に向上しました。

北鴻巣駅については、新たに西口を開設し、吹上駅については、北口の駅前広場や南口を整備しました。

本市の玄関口となる3つの駅を整備したことにより、市民の皆さんの利便性・快適性・安全性・都市景観など、多くの面が向上し、本市を訪れる皆さんの印象も大きく変わったことと思います。

整備された鴻巣駅東口周辺

◇道路整備の状況は

市長　道路は、近隣と本市を結び、各地域を結び、人と人を結ぶ重要な役割を持っていると私は考えています。三地域の均衡ある発展と新市の一体性の確立には欠かせないものですので、先ほど説明した合併特例債を活用し、重点的に整備を推進しました。

主なものでは、川里地域と鴻巣地域を結ぶ市道Ａ－１００４号線と渋井橋の路線の整備や、鴻神社に面して中山道と交差する三谷橋大間線整備です。道路拡幅とともに、地下道として整備した三谷橋大間線は高崎線の東側と西側の道路交通が大変便利になったとの声をいただいています。現在、国の上尾道路の延伸が進められていますので、接続する市道についても、順次整備を進める予定です。

◇子育てや教育の取組は

市長　合併による国や県からの財政措置を活用した都市基盤の整備と併せて、市民サービスの向上についても、合併をチャンスと捉え、すべての政策で積極的に取り組んできました。特に重点的に推進したのは、子育てや教育、健康づくりの分野ですね。

　子育てや教育は、未来の鴻巣市を担う人材の育成であり、各家庭はもちろんのこと、地域を挙げて支援する必要があります。そこで、本市では、全国に先駆けて、子ども医療費を中学3年生まで無料化し、現在は18歳まで拡大しています。産後ケア事業や3歳児健診時の視覚屈折検査、小学校入学前の5歳児健診など、子どもたちの病気の早期発見、予防にも力を入れています。

　また、保育所や放課後児童クラブの休日保育、保育ステーションの設置、病児・病後児保育、保育所の園庭の芝生化や幼稚園・保育施設の花いっぱい事業、キッズゾーンの設定などの保育施策を充実させ、安心して子育てができる環境づくりに努めています。

　教育の分野では、吹上小学校及び吹上中学校の校舎、小谷小学校の体育館の改築、各小・中学校の耐震補強及び大規模改修、鴻巣中央・吹上図書館の整備、吹上・川里・北新宿生涯学習センターの整備などをはじめ、小学校校庭の芝生化や市独自の教育支援センターの開設、ＡＬＴの充実による外国語教育の推進、全国に先駆けた教育ＩＣＴ環境の構築、全小学校での自校式給食の開始、中学校給食センターの改築など、次代の鴻巣市を担う「のすっ子」の育成にも力を注いでいます。このように、質・量ともに優れた子ども・子育て施策並びに教育施策が展開できていると考えています。

登戸保育所園庭の芝生化お披露目式

◇健康づくりの取組は

市長　健康づくりの分野では、ふるさと総合緑道や赤見台近隣公園などを活用したウォーキングやラジオ体操、のすっこ体操など、身近で取り入れやすい運動を習慣化する「身体の健康づくり」はもとより、市民大学講座「こうのとりアカデミー」や市民活動・コミュニティ活動を通じた「心の健康づくり」に取り組んでいます。

　本市の取組は県内でも注目されており、平成29年度から本年度まで6年連続で埼玉県から表彰されています。

　このような健康長寿の重点的な取組の結果、65歳以上の方の健康寿命※が、平成26年度時点では県平均を下回る男性16.75歳・女性19.49歳から、令和2年度時点では県平均を上回る男性18.11歳・女性20.79歳と大幅に延伸しました。さらに、平均寿命では、男性81.79歳、女性87.51歳とどちらも県内3位となるなど、取組の成果が表れています。

　市民の皆さんが、住み慣れたまちで、生きがいを持ち、いきいきと健康に暮らすことができるまちづくりは、地方自治の原点だと思っています。

◇安全・安心の取組は

市長　安全で安心して暮らせる地域づくりにも積極的に取り組んできました。

　平成23年3月の東日本大震災や令和元年東日本台風を教訓として危機管理の専門部署を独立して設置し、地域防災計画のもと、ハード・ソフトの両面からさまざまな防災対策を講じています。

　新型コロナ感染症対応では、国や県、そして鴻巣市医師会等の関係機関や団体との調整を行い、速やかなワクチン接種体制を構築し、6月末現在、すでに71.2％の方が3回目の接種を終了するなど、全国や県平均と比較して高い接種率となっています。7月からは60歳以上や基礎疾患のある方の4回目の接種を開始したところです。

　また、ワクチン接種と並行し、感染防止対策や感染症により影響を受けた市民の皆さんの暮らし、地域経済の回復に向け、国の交付金や基金等を活用し、第1弾から第10弾まで、本市独自の感染症対応事業を積極的に展開しています。

※健康寿命：鴻巣市・埼玉県では、65歳に達した人が「要介護２以上」になるまでの平均的な年数のこと

合併検証報告書は市HPで公表しています▶

◇新市での特色ある取組は

市長　私はこれまで、市町村合併を推進し、新市のまちづくりを計画・推進する中で、都市基盤の整備による快適性や利便性の向上に取り組む一方、コウノトリをシンボルとした緑豊かな自然環境の保全との両立、ハード事業とソフト事業のバランス、また、健全な財政運営を保ちつつ、1,000を超える事業を実施してきました。これらの取組は、今後のまちづくりの「礎」になると考えています。

全国的に少子高齢化や人口減少が進む中、活力ある地域を創るためには、地域の特色や時代の潮流を踏まえ、本市の特色である「花」を生かしたまちづくり、人々の生活に欠かすことのできない「緑」を守るまちづくり、そして、何よりも「人」が健康で、いきいきと元気に、安心して暮らせるまちづくりをコウノトリに乗せ、人々の笑顔とともに、未来の鴻巣市へとつないでいくことが大切であると考えています。

これまで本市では、新市建設計画に基づき、合併市町村のみに認められる国や県の財政措置を活用し、将来の財政的負担を抑えた中で、新市のまちづくりを着実に推進してきました。

「鴻巣市・吹上町・川里町合併検証報告書」は、これまでの新市のまちづくりを取りまとめて検証した内容となっており、新市のまちづくりの記録でもあります。

これまで取り組んできた数々の事業は、合併前の1市2町では、人的、財政的な面から推進が難しかったものもありましたが、これらの事業を成し遂げることができたのは、合併によるスケールメリットの効果であり、そして何よりも、市民の皆さんのご理解とご協力の賜物とを心より厚く御礼申し上げます。そして、「花かおり　緑あふれ　人輝くまち　こうのす」の未来に向け、引き続き、市民の皆さんのご協力をお願い申し上げます。

さらなる発展を願って

鴻巣市長
原口和久

日頃より市民の皆さんには、格別のご支援、ご協力を賜わり、厚く御礼申しげます。

私は、平成14年８月の市長就任以来、５期20年にわたり、市政運営に全力を傾注してまいりましたが、このたび、７月31日の任期満了をもちまして、鴻巣市長を退任いたします。

この間、皆さんには、温かいご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

私は、市長就任以来「行政は最大のサービス業である」との一貫した基本姿勢の下、市民の皆さんと共に考え、汗をかき、喜びを分かち合いながら、様々な施策の積極的な展開を通じて、皆さんの満足度向上に努めてまいりました。

特に、市長就任直後から、市町村合併の推進を提唱し、平成17年10月に新たな鴻巣市としてスタートして以降、各地域の均衡ある発展と速やかな一体性の確立を目標に、合併特例事業を中心として、ハード事業・ソフト事業の両面から、全力で取り組んでまいりました。

市内３駅の駅前整備や道路、公共交通などの都市基盤等の整備による快適性や利便性の向上に取り組む一方で、子育て世代のニーズに対応した質・量ともに優れた子ども・子育て支援施策の展開、健康長寿の取組の推進など、合併を契機に、ハード事業とソフト事業のバランスを保ちながら、数多くの事業を全方位で積極的に実施し、今日の鴻巣市に至っております。

このような合併後の新市のまちづくりは、市民アンケートにおいても定住意識が大幅に向上しているほか、７年連続で転入者数が転出者数を上回るなど、市内外から高く評価されており、新市のまちづくりを推進してきた市長として、感慨深いものがあります。

また、新市のまちづくりは、市民の皆さんが安心して暮らし、働き、子どもを産み育て、次代を担う子どもたちが将来に夢や希望を抱きながら成長できる鴻巣市の実現に大きく寄与するものと考えています。

市民の皆さんには、引き続き、本市のさらなる発展に向け、温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さんのご健勝、ご活躍を心から祈念し、退任にあたりましてのご挨拶といたします。